

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ一人ひとりの意見を反映し理念を築きあげている。常に意識し取り組めるようにテーマを掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所やリビング、玄関に掲示し、会議等では、理念に添って実践できているか職員同士確認し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットやまりあ通信等を通じ、ご家族や地域の方にも理解して頂くように努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の地域の方とは犬の散歩等に挨拶や情報交換を行い、交流が持っている。また、地域行事や清掃活動には積極的に参加し、ホームの行事にも参加して頂き交流を図っている。いつでも気軽に来て頂けるよう配慮し声掛けしている。町内のひとり暮らしの高齢者（浅虫長寿会）へ認知症についての説明をしたり、相談窓口として気軽に相談できるよう話している。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、ケアを見つめ直す良い機会となっている。努力しなければならない点が明確となり、良いケアができるよう会議の場で検討し、実践している。外部評価の結果報告については会議にて報告し、改善に向け職員の意見を反映しながら取り組んでいる。		
6 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子や行事等、またホーム内で取り組んでいる事なども報告している。自己評価や外部評価の結果は報告し、ご意見を頂き改善後の報告も行っている。		
7 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットを配布し、運営推進会議の結果や外部評価の結果を報告している。また、困っている事などの相談はその都度行い、連絡を取り合い助言を頂いている。		
8 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を利用している入居者様もいる。職員へ全体会議をもち、権利擁護や、成年後見制度について勉強し理解している。		
9 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	会議や勉強会等で尊厳について話し合い、虐待について理解している。また、虐待発見時の対応についてマニュアルを作成している。職員がお互いにチェックできる環境を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書等、ご家族が理解していただけるようにわかり易く説明している。また、不安や疑問がないか、意見を聞くようにしている。退去時には書面にて個人情報の保護や所持金等についても説明し手続きを行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満等いつでも話できるよう一人ひとりと個別にコミュニケーションを図り、こちらから話す機会を設けるようにしている。また、行動・言動から察知し要望や不満を見出し、改善できるように会議で話し合い、サービスの向上に努めている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に一度、利用者の様子を手紙で送付している。また、2ヶ月に1回まりあ通信にて写真を掲載し送付している。面会時にはその都度、近況を伝えている。預かり金についてはお小遣い帳に記載し、確認して頂くようにしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは気になる事はいつでも話して頂けるよう信頼関係を築くよう努めている。苦情受付窓口や意見箱を設置し多くの意見を求めるようにしている。苦情や意見はすぐに対応しケアに反映するよう努めている。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議には、職員の意見を出し合い、ケアへ反映している。職員が話しやすい場となるよう努めている。伝達ノートを活用し、職員全員に周知するようにし、対応している。また、毎日のケアの中でも、困っている事や不安など問いかけるようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が状況を把握し、勤務表を作成している。ケアが必要な時は人員を増やし、対応している。急な勤務変更がある時は変わりの職員が対応できるよう職員も理解し体制を整えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく、移動は無い様考慮しているが、やむ終えない移動や退職については、利用者に話し理解して頂いている。必要に応じ、実習期間を設け、利用者の情報や職員間の伝達等にも詳しい情報を提供し、できるだけ変化がない様努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した際は報告書を記入し、回覧等で職員へ周知するよう努めている。また、会議の場で研修内容を報告しケアに活かすようにしている。毎年、認知症実践者研修へ職員が受講するようにしている。	○	外部研修に参加し、職員全員が学べる機会を多くもっていきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターが中心となり、圏域のグループホームとの勉強会や情報交換を行っている。グループ会社のグループホームとは常に相談し合い、サービスの向上や職員育成について話合っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の職員の状態を報告し、悩みやストレスはないか聞き出して相談している。解消できるよう改善し働きやすい環境づくりに努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	頻度にホームに来られ、現場の状況や勤務状況は把握している。職員の努力や工夫している事は高く評価し、向上心をもって仕事ができるように励ましている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と面談し、直接話しを聞く機会を設けている。入居希望やご家族の心情を探り、身体状況やご家族の思い、ニーズを優先している。何でも相談して頂けるよう信頼関係を築く事に意識している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談してご家族が困っている事を見出し、思いを確認しながら支援計画をたてている。、対応が可能な要望は柔軟に対応し、対応が不可能な場合は、その他の関係機関に相談し、連携をとっている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には施設を見学して頂き、本人が来れる状態であれば来てもらっている。ご家族から意向や生活暦等を聞き、利用者の視点から支援を行っている。自宅を訪問し、入居時には今まで生活していた環境に近づけるよう配慮し本人が馴染めるようコミュニケーションを多く図り、ご家族へも協力をして頂いている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを多くもち、一緒に作業する事で支えあえる環境作りを意識している。何を求めているか常に行動・言動から利用者の思いを探り向き合っている。利用者から教わる事も多々ある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子をお伝えし、ご家族の気持ちや思いを聞きだし情報を共有している。双方の心情をふまえ、利用者を共に支えるよう意識している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回の面会はして頂くよう配慮しご家族へも理解して頂いている。利用者の希望により、電話でお話したり、面会や外出等ご家族にも、協力して頂いている。ご家族との外出や外泊ができるよう相談したり、行事には一緒に過ごせる様機会をつくっている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や電話等は利用者やご家族からお話を聞き、今までと変わらず行き来できるようこちらからも話している。利用者にとって馴染みの場所にはドライブ等で出かけている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、共に支え合って生活している場面が良く見られている。気の合う利用者同士と一緒に楽しめるように配慮している。また、職員が調整役となり、仲良く過ごせるよう間に入り、良い関係作りを意識している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も面会に行き、様子を伺っている。ご家族も来て下さる等退去後の関係も続いている。また、いつでも相談して頂けるよう話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを図り、思いや意向を常に探って何を望んでいるのかを考え、職員同士で話し合いご家族へも相談しながら、行っている。その結果をご家族へも報告している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの個性・生活歴から、その方に合った生活ができるよう配慮している。面会にいらっしゃる友人の方からも、情報を得て介護計画に反映するようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、行動・言動・バイタル等により、体調の変化や気持ちの変化に気づき対応している。できる事、介助が必要な事を把握し、できる事を少しでも増やしているよう支援している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の立場にたち、ご本人の思いに添った計画を作成している。職員全員で話し合い、その方らしく生活するにはどのようなケアが必要かを見出している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヵ月毎に評価をし、アセスメントをして利用者の状態の変化や状態に応じて計画の見直しを行い、現状にあった計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や伝達ノート、バイタルチェック表にその日の状況を詳しく記録し、勤務時間前には必ず確認する事としている。情報を共有し、介護計画に添ったケアが継続できるよう配慮している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日誌や伝達ノート、バイタルチェック表にその日の状況を詳しく記録し、勤務時間前には必ず確認する事としている。情報を共有し、介護計画に添ったケアが継続できるよう配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方には協力をお願いしており、警察や消防へも情報交換し、緊急時の協力をお願いしている。地域資源を活用し、地域の活力になるように心掛けている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他サービスを希望する方がいない為行っていないが、必要に応じケアマネや他事業所と相談し連携を図っていく。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席して頂き、情報交換や相談等協力関係を築いている。また、勉強会などで相談する機会が多く、その都度相談している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居の際には、アセスメントシートを活用し、日常の様子もふまえて情報提供している。今までの生活が継続できるよう、気を付けなければならない事等は情報を交換している。自宅へ戻られる際も相談やアドバイスできるよう支援している。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについては常に利用者の立場に置き換え、支援している。職員がお互いにチェックし合える体制をとり、利用者への対応について、適切な声掛けや対応ができるよう指導・助言をしている。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望や意思にそって、自己決定できるよう支援している。行動を観察し、何を求めているのかを本人の立場に立って考え、選択できるような場面を作っている。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活暦やご家族の情報から、その方のペースで生活できるようご本人の意思を尊重し、その時の状況に合わせて支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みの理容店や美容院がある方は、ご家族の協力もあり継続して利用して頂いている。また、地域にある理容店に行き、終わり次第連絡を頂けるような体制をとり、利用者と地域の方との交流の場にもなっており、楽しみとなっている。また、ホームに来て散髪できるようにもなっている。整容に関しては必要に応じ介助している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き、献立を作っている。また、嫌いな物がある方にはメニューの変更や調理法を変えるなどし、対応している。調理や後片付けには入居者様と一緒にっており、食事は職員と共に会話をしながら楽しめるように配慮している。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し、入居者様の咀嚼・嚥下の機能により、安全でおいしく摂取して頂ける様配慮している。苦手な物がある時は選択できるようにしている。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるよう自立支援に向け職員と話し合い取り組んでいる。プライバシーの保護に努め、声掛け・対応に留意し、自尊心を傷つけないよう配慮している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日については概ね決めて入浴しているが、希望によっては毎日の入浴もできるようにしている。入浴を楽しめるように入居者様の希望の温度にあわせ入浴している。拒否された場合には時間をずらしたり、翌日に入浴するようにしている。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間を把握し、その日の状況に合わせて休息や睡眠ができるよう配慮している。眠れない利用者には、一緒に付き添いテレビを見たり、添い寝をする等し、利用者に合わせてケアをしている。また、昼夜逆転とならないよう生活リズムを整えるよう努めている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、趣味活動を活かしたり役割を持って生活できるよう支援している。また、新たなものをこちらから提供し、興味があるものに関しては参加して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理する事で安心される方には少額だが、所持し、買い物の際に支払いしている。自己管理できない方には、職員が付き添い使用時に手渡ししている。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはホーム周辺の散歩をしている。また、その方の状況により、車椅子を使用したり安全面でも考慮している。またドライブに出掛けたり、ショッピングをしたり気分転換を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事を計画し、思い出のある場所等考慮し出かけている。また、ご家族の協力もあり、希望に添って出掛けられている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の友人も面会に来て頂いたり、利用者より友人に電話したり、お手紙を出したり、入居前の友人との付き合いが継続できるよう支援している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族をはじめ、知人や友人の方の面会は気兼ねなく来て頂くよう話している。居室にて談話を楽しんで頂いたり、リビングにて職員も一緒に談笑し、過ごしやすい雰囲気作りとまた来て頂けるよう意識し対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内容やそれによるリスクについて職員には都度伝達し、理解している。利用者の状態によりやむを得ず身体拘束する場合にはご家族へ説明し、書面にて同意を得、経過観察をし、できるだけ拘束しない努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段やエレベーターに通じる扉には施錠している所があるが、事務所内を通過して階段へ行く所は1階へ自由に行けるようにしている。外出傾向を察知した場合は職員付き添いのもと外出している。無断外出があった場合は、警察に連絡し、近所の方や地域のタクシー会社、同グループ会社の協力を仰ぎ捜索するよう体制を整えている。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら、所在確認をしている。居室で過ごされる際にも訪室し、コミュニケーションを図るなどし、見守りしている。夜間は利用者の安眠を妨げないよう配慮し1時間毎に見回りをしている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は鍵の掛けられている物品庫や洗濯室に置かれている。薬等は事務所内のロッカーに置き、目が触れない所に保管している。利用者の状態により、異食の危険がある物に関しては職員管理とし、事務所に保管している。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書はその都度記入し、その時の現場の状況や利用者の様子を分析し、考えられる事故を防ぐ為、すぐに対応策を挙げている。また、月1回のフローア会議に再度話し合いをもち、その後の様子や他の対応策が無いかを職員の意見を聞き対応している。また、ご家族への説明を行っており、理解して頂いている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当マニュアルを作成し、周知徹底に努めている。避難訓練時には急変や事故に備え緊急対応できるよう模擬訓練も行っている。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生の訓練は日中・夜間を想定し、利用者の協力も得て定期的に行っている。すぐに通報できるようにマニュアルを掲載している。また、近隣の方へも協力して頂ける様お願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の様子をご家族に都度話している。その中で起こりうるリスクや対応策についても話して、理解して頂いている。また、利用者の精神的な負担にならない様に工夫し、対応の見直しを行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックをし、体調を確認すると共に、いつもと違う行動・顔色・言動等を察知し、医療機関に連絡し対応している。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の情報はファイルにしてすぐ確認できるようにしている。薬の変更時には必ず伝達し、薬の情報をファイルして周知徹底をしている。誤薬がないよう、対策を講じ取り組んでいる。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を探り、できるだけ自然排便できるように排便を促す為にメニューやおやつを工夫したり、運動を促すなどしている。下剤等で排便を促している利用者に関しては医師と連絡をとり、本人の負担とならないよう、薬の調整を行っている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員全員が口腔内の清潔保持に必要性を理解し、毎食後に歯磨きとうがいを行っている。また、できるだけ自力で行えるよう見守りし、できない事は介助するようにしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立にしている。調理の時は減塩に努め、利用者一人ひとりの状況（糖尿病・義歯の有無）に合わせ対応している。水分は十分に取るようこちらから提供している。栄養士に相談し、指導・助言を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対してのマニュアルを作成している。職員の周知に努め、職員が目にしやすい場所に掲示している。日頃から手洗い・うがいの徹底や掃除の徹底、調理器具の消毒を行っている。市や保健所からの情報が入ると職員へ周知に努め、予防対策を再度徹底するようにしている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日夕食後には調理器具をハイター消毒している。布巾は毎食後消毒している。食材は週に2回購入し、賞味期限に関らず、早めに調理している。食中毒予防早見表を掲示している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花壇を設け、花を育てている。ホーム前には居室からも見えるように花や野菜を植えている。また、天気の良い日には玄関前に犬をつなぐようにし、学校帰りの小学生や近隣の方が立ち寄ってくれている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやダイニングの窓からは、季節が感じられるような作りになっている。また、掲示板には季節に応じた作品や写真が展示されている。日差しが強い時にはカーテンを使用し、環境整備にいつも配慮している。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がいつでも団らんでできる様配慮し、共有スペースが確保されている。また、好きな場所で気の合った方とくつろぐ事ができるようリビング・ダイニング・畳のスペースがある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使って来られたなじみの物を使用 し、御家族と相談し持って来て頂けるようお願い している。また、食器や寝具類は今まで使用して きた物を持ってきて頂いている。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日の掃除の際は必ず換気して行っている。換気 扇は常時可動し、温度計と室温計を設置し、いつ でも暖房を使用できるようにしている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	安全に考慮し、廊下・階段・トイレ等には手すり が付いており、転倒につながるような物は置かな いように点検している。エレベーターも設置され ており、利用者の状態に応じて使用できるよう車 椅子が確保されている。歩行の妨げにならないよ う安全面にも考慮し家具などの配置をしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者一人ひとりの状態を把握して、職員と一緒 に作業しながら見守りその方の力を引き出せるよ う支援している。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ホーム前にはベンチを置き、利用者と一緒に花や 野菜を育て、毎日成長を見守っている。天気の良 い日はホーム前に犬もいるので様子を見に行っ たりし楽しみとなっている。また、廊下や階段を 使った歩行訓練をおこなったり、畳みのスペース では横になってくつろげるようになっている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

\*自然豊かな環境にあり、散歩には海を見に行ったり、浅虫ダム周辺へ山を見に行ったり、地域全体を活用しています。

\*町内の関連施設である診療所の医師が緊急時には夜間・休日問わず対応できる体制が整っています。

\*セラピードックを取り入れ、看板犬「まりあ」と触れ合う事で、認知症高齢者のケアに活用しています。また、近隣の方や小学生との交流にも一役かっています。

\*一人ひとりに合わせたケアを提供しご家族と職員が共に利用者を支え合いながら穏やかに笑顔が絶えない生活ができるよう取り組んでいます。